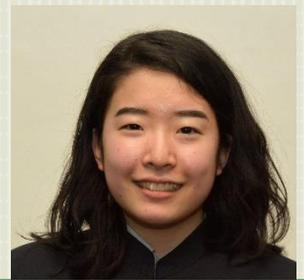


うしき りん  
八戸聖ウルスラ学院高等学校 牛木 鈴



約2週間の海外研修や2回の国内事前研修で学んだことは、かけがいのない思い出となりました。私は、今回の「高校生による海外エネルギー事情研修会」への参加が決まるまで、エネルギーの知識は授業で習った程度しか知りませんでした。そのため、事前研修での学習はかなり濃く理解するのに大変苦労しました。しかし、苦労した分エネルギーについての知識は、以前の私に比べてかなり身についたと思います。

日本は世界第4位のエネルギー消費大国でありながら、そのエネルギー自給率はたったの8%という先進国であり、エネルギーに関しては弱い立場にあります。大きな影響としては、東日本大震災で起こった福島第一原子力発電所事故があると思います。この事故をきっかけに日本や世界各国では、原子力発電所の安全に対する基準が厳しくなりました。新たな基準に適合させるための安全対策設備の追加設置に必要なスペースが不足していることなどから、廃炉を決定している原子炉もあります。また、運転休止中の原子炉は数多いです。そして、2011年から原子力発電の割合が大幅に減ったのと同時に火力発電の割合が増えました。CO<sub>2</sub>をあまり排出しないクリーンエネルギーとして太陽光発電や風力発電などが注目されていますが、天候に左右されたり広大な土地が必要だったりするなど良い面ばかりではありません。安定的に供給できる火力発電、安く電力が得られる原子力発電、地球に優しい再生可能エネルギーに加え「S (Safety) + 3E (Energy security, Economic efficiency, Environment)」の観点でうまく利用しながら発電することが大切だと思います。

スウェーデンのフォルシュマルク中・低レベル廃棄物貯蔵所施設、フランスのオラノ社、ラ・アーク再処理施設の見学をしました。日本の施設見学では見られなかった部分も見せてもらい、なかなか体験できないことをしました。地域住民に放射線の心配がないようにするため、見せられるところは見せたり、答えられない質問はないようにするなどをして地域住民との信用を得ているそうです。

現地高校生とのディスカッションや異文化交流では有意義な時間を過ごすことができました。特に、交流をされていて私が強く感じたのは「意識の違い」です。スウェーデンの高校生と話をしていて感じたのですが、スウェーデンの人は第一言語ではない英語を「小国だから世界に自分たちの存在をアピールするために話さなければいけない」と考え流暢に話している人が多かったです。日本も先進国でありながら英語を流暢に話す人は多くないと思います。また、スウェーデンもフランスも自国に対してのエネルギー関心度が高いと感じました。それは、私たちがエネルギーについてのディスカッションをするために来たから細かく調べたのではなく、元々エネルギーについての知識が身につけていたんだと思います。日本の学校はエネルギーについて簡単に学校で学ぶだけですが、両国の学校ではエネルギーだけの授業があると聞きました。教育制度もそうですが、私たちは大学受験の勉強ばかり

するのではなく、日本の将来のあり方についても友人達と話し合う機会が必要だと感じました。また、異文化交流の時間では、日本に興味のある生徒が集まっていることもあり、日本の食べ物やゲーム、文房具など日本の魅力について少しは広められたのではないかと思います。初めは、なんと英語で話せば良いのか分からなくて戸惑っていたけど、現地の高校生がジェスチャーや英単語で何を言いたいのか汲み取ろうとしてくれました。時間が経つにつれ何を言えば良いのかわかってきたので、相手との会話を楽しむことができました。英語で意思疎通を図ることはもちろん大切ですが、本当に相手に何かを伝えたいのなら、言語を使わなくても相手に伝わるのではないのかと感じました。

研修を通して、日本は多くの問題を抱えていると感じました。一つ目は「外国依存の国ニッポン」です。日本はエネルギー自給率や食料自給率がとても低く、海外からの輸入にほとんど頼っています。また、人口減少社会による労働力不足のおかげで、外国人労働者がますます増えてきています。そして、彼らは貴重な労働力として雇われ、頼っている会社も少なくありません。もしこのまま何も対策を打たないと、「何もできない日本」になってしまうのではないのでしょうか。極論ですが、技術はあってもモノがない、人が足りない、何かをしようとしても何もできなくなってしまう日がそう遠くでもないのかと考えます。二つ目は「日本の教育方法」です。これは現地の高校生と話をしたり、ガイドさんから国の教育制度を聞いていたりして感じたことなのですが、どちらの国も議論を設ける機会が多いことから、自分の意見を持ちながらも相手の意見を尊重する人が多いと思いました。前文でも書いたように、私たち日本の学校は議論をするという機会があまりなく、高校なんかは「大学に入るための学校」という存在が大きく、日本のことについて考えたりしている人は本当に少ないと思います。考えたりする自由な時間が少ないから日本の政治について考える人も少なく、若者の政治離れが進んでいるんだと思います。

今回の研修で楽しみにしていたのは、各国の施設見学や現地の高校生との交流だけではありません。もう一つは、ヨーロッパの世界遺産を訪れることです。歴史や世界各国の世界遺産が好きで、ガイドさんが説明してくれたことが授業に出てきたりすると、頭の中で「あ、点と点が繋がった」と感じたり、建物の隅々まで見て歴史を感じたりするのが本当に楽しかったです。特にモンサンミッシェルはいつか行きたい世界遺産の一つだったので、今回訪れることができるととても幸せでした。将来は観光業に携わる仕事をしたいと思っているので、研修中での添乗員さんやガイドさんの働きぶり、そして各国の観光資源のアピールなども勉強になりました。まだ具体的にどうしたいのかは決まっていますが、お客様が幸せな顔をして帰られるような仕事をしたいと思います。

私はこの研修に参加できたことを誇りに思います。全体目標である「サステイナブル～ハッケンしよう！夢の切符～」は、エネルギーに関して将来に向け持続可能な方法を「発見」する、または現地の高校生との交流や生活を通して自分の進路に

---

もつながるような夢の切符を全員が「発券」できるようにしたいという意味が込められています。私はエネルギーのあり方や将来の道を「ハッケン」できたと思っています。また、個人の大きな目標である「現地高校生に積極的に話しかける」ことは、最初のうちは恥ずかしくてできなかったけど、日が経つにつれて「話せる機会は滅多にないんだ」という思いが強くなり積極的に話をすることができました。

最後に高校生6人で研修ができたこと、出会った人が良い人たちだったこと、たくさん迷惑をかけながらも付き添ってくださった方々に感謝します。この研修が大成功したのはたくさんの苦勞があり、間違ったりしても大人の方々が修正して、丁寧に教えてくれたからです。本当にありがとうございました。

